

彙
紀
本
紀



特別
~ 13
3633
28



特

門 へ 13
號 3633
卷 28

彙軌本紀序



背者司馬仙人登龍門

撥禹穴與天下之豪傑

游作史記本紀方今島

田金谷入大門撥二階

昭和二十二年六月八日
宮川美魚氏寄贈

與天下之通人游作彙
軌本紀彼唐人竊語也
此江戸本枝也彼松江
之鱸不如日本橋之初
鯉彼新豐之酒焉及隅

田川之請白乎夫不窮
河源者未睹崐崙不飲
水道水者惡稱所謂大
通者乎中立而不倚通
哉通教訓而不仕彙軌

哉彙軌本紀之名本不
 虛矣因染如在之序字
 以冠于手拭之端云爾
 天明甲辰松王正月
 武部源藏高第四方

山人書初



景軌本紀序

一圍之木持イノハタモキニル軸之屋ニルキノヤニ分ニグ

之金求傾カ子ハム城之美ビナレヲ矣嗚呼

東都之盛焉ナルヤ其言樂之テコトヲアケルモ

亦直也△ヘナリ扶ニホシ系橋ニバシ之魚サカナ火ヒ燿ヤク不メ

遺スギ四時ヨ而ワ靡ク一匹ヒキモ青樓ヨシハラ

娼妓ケイセイハ不待ニメ孔河ヒケヨ而ナシ靡ク一匹ヒキモ人矣モ

辱カクシテ以テ永道ニ水ヲ為シ產陽ウゲ

自ヨリ喪ヒキ忘ニト親ニ於テ輔シヤキ而ナリ為ル長ヒト之ナリ

德トク者ハ則モ雖イハクニ孰ユクニ之ニ曰フ資シト於ニ

序一

引ヒ采ケ以テ換ヤ息ム子ス株コ平カ不ニ

可シ不レ鄉食モテ也ナリ老子ロウシ曰ク費ウイ莫ヤス大ク室キ

若ゴト遺シト小錢ツカ是カ東セウ都ト子コ之ノ

所ナリ顯アラハ氣情キシヤウ也ナリ島田ユウジン

金谷アラハ著スお景イ軌キ本紀キ

一ヲ卷ヲ一ヲ槩ヲ扶ヲ於ニ當ニ河ノ之ヲ空ヲ敷ヲ

後ヲ聰ヲ之ヲ記ヲ於ニ西ニ海ヲ以テ誌ヲ

序ヲ之ヲ余モ亦モ同ニ穴ノ之ヲ格ヲ與ト

應ヲ飲ヲ回ヲ山ノ之ヲ真ニ鴉ノ俱ニ呈ヲ

繼ヲ於ニ控ヲ伺ヲ矣ヲ

序 二

天明四甲辰歲孟春

口唐出鳳臺讓琰撰



よ—京北 四方赤良

おこせと

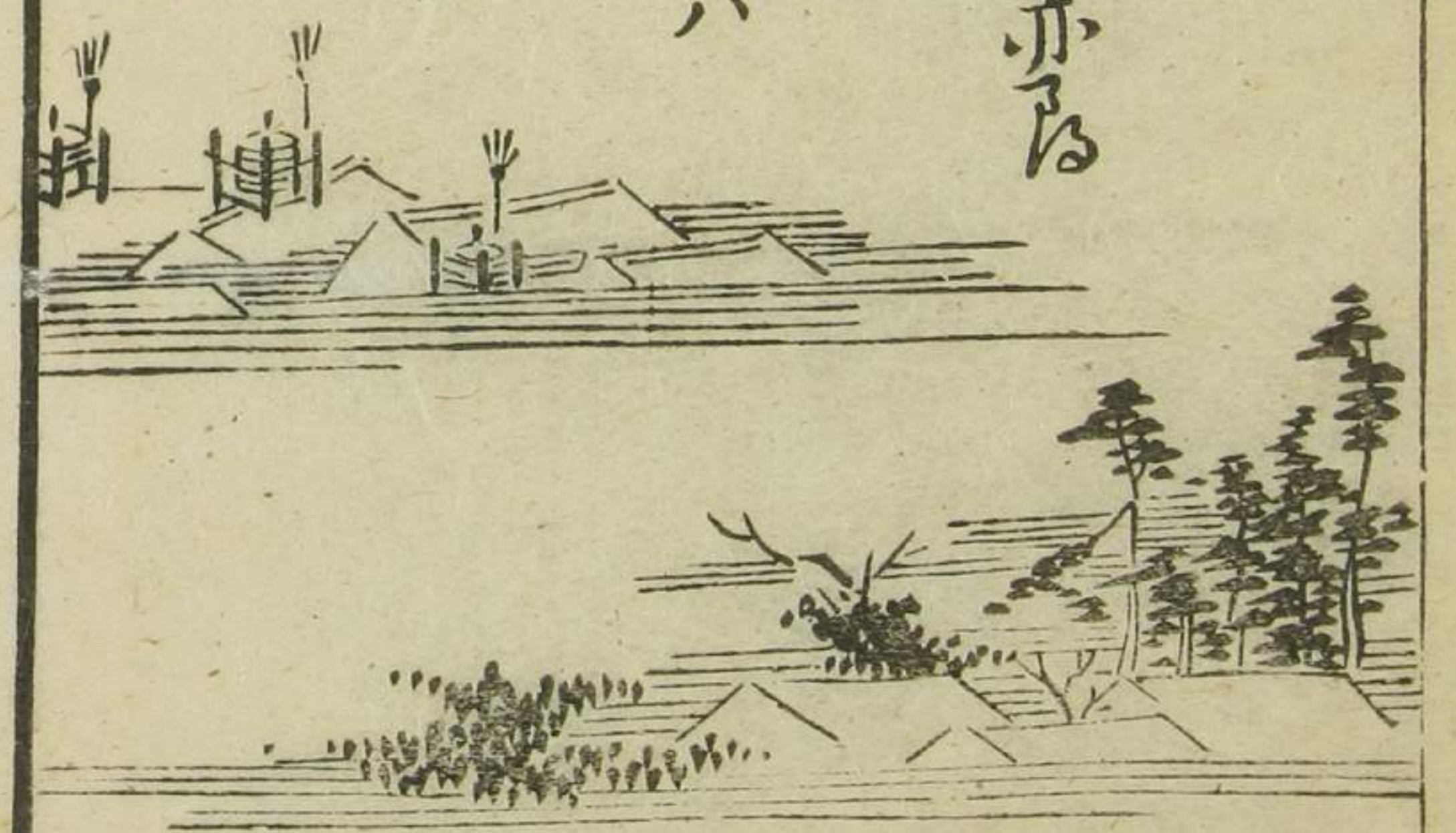
たる乃夕くらハ

入おの

鐘子

花中

さく之



序三

狂訓彙軌本紀

雲筑 島田金谷 纂輯

口唐 出 鳳臺 校訂

天照太神素盞鳴尊天津罪

を侵したまひしとを憎ませ

ぬまひて。天の岩戸を閉り隠れ

しとてくバ。天下やみともあふ

り。八百萬乃諸々如神達

太神宮を寸々一出奉らん爲ふ。

庭燎^{ひら}以^て焚^く神樂^を奏^すて其

多^くし^ては^ば。岩戸^を少^くし^ては^ば。

御覽^を一々^と記^す。世間^を一々^と。

人の面^を一々^と見^る。面白^くと

いふ。此^の時^に起^る。ま^と岩戸^を細^く

側^{かたはら}魚^{ぎよ}店^{てん}斬^{のき}を^をあ^らへ^ば四^よ時^じか^らじ
ら^ず日^ひに^も千^{せん}金^ごを^を南^{みなみ}に^あけ^りか^きえ
百^{ひゃく}か^きえ^んの^の唐^{たう}音^{いん}ハ^ハ莊^{じやう}子^こ呼^よぶ^る卷^{まき}
舌^{しつ}と^と争^{あつ}ひ^ひ杓^{しやく}松^{そう}魚^{ぎよ}價^{あたい}百^{ひゃく}貫^{くわん}と^と
遠^{えん}近^{きん}に^に飛^とひ^ひ鮒^ふ鯨^{くわん}ハ^ハ珠^{しゆ}玉^{ぎよく}に^に換^かへ^り
東^{とう}西^{せい}と^と走^はる^る。鯛^{たい}を^を諸^{しよ}侯^{かう}と^と奉^{ほう}じ^じ
と^と下^げ賤^{せん}の^の食^くも^も其^{その}買^かひ^ひ上^ある^る何^{なに}豚^{ぼん}販^{はん}

二

食^く屋^や乃^の麴^せ棒^{ぼう}手^て振^ふハ^ハ生^{なま}翰^{かん}鮭^{さけ}の^の
魚^い以^い售^うる^る妻^{さい}子^こと^と養^{やう}ふ^ふ人^{ひと}物^{もの}活^く
と^と勢^{せい}昇^{しやう}天^{てん}の^の籠^{かご}乃^の如^{ごと}し^し二^に合^あ
五^ご夕^{しやく}酒^{しゆ}に^に醉^{すい}る^るを^を源^{げん}ハ^ハと^と剛^{かう}
諱^{かたがひ}と^とな^なび^び親^{おや}分^{ぶん}を^を不^ふ訣^{けつ}と^と制^{せい}す^すハ^ハ
雙^{すわう}方^{ほう}口^{くち}を^を閉^とじ^じ止^やむ^む和^わ睦^{ぼく}の^の河^か漏^{ろう}
ぬ^ぬる^る以^い異^い客^{かく}前^{ぜん}帯^{たい}と^と殷^{いん}勤^{きん}を^をり^り。

さんちくくは焼灯を西國橋より
長く納太刀を梁より大あり。
あんなのぶん佛の大音ハ佛も
耳と塞ハ六根清淨の驥劇ハ
不動も送上すやうく林几天万度
乃振や張込大弁多親分の流
義と阿ふ遠意延引の間達先

刻先時乃誤片言生りよく通す。
仙の字は手杖半顔とばし糸は
禪を風を翻る般若の面女の首
のや焦乱髪長髪ハ仲間了燃
あり相傳ハ顔見世の積也扇屋
が蒸籠らんびーの空樽大路と山と
か。善者中乃張札帳屋が筆

跡と見事あり。紋と手杖を
 木戸銭とすま屯一と手
 梅子近隣の響音と鳴雷と何や
 まつる。木戸番海老藏仕着と
 留場とハ木のまろ立花道と歩
 行す棧敷の美人をとる。より
 人中和割る山々手乃客とま

おも新小蒙る體に痣の
 張あみ口紅のまを失ふ。太夫
 内簾の綿帽子も降積む雪
 と疑も五間續け黒仕立洒落
 止時ふく尚表る。羽屋々折南鏡
 二片と以ぬ。まの梅子木ハ
 聚客名を直。願う口上さ

聞一す。首希のけ下り葉に兵當の
箸を投る響の一聲吉例の角鬘
主膳が上瑠理を獅子の形る小異
あしす立出る柿乃素柳悠くも
し多花道に到るを響る花
異口同音くしと積よる莖籠
乃山に響く。年々歳々おきりぬ

花樹似たり。打驚く敵後隠し
と進むと能く守。よりおきり金
巾に乃冠ハ天幸も毎さぶらぶとく。
姫君の危難を救ひ奉る。一刀の
下り首百汲と伐る大なる我
東都の親玉株。用もちさる八百
ハ街。風来散人。飛ぶ。噂を評しと

彼が氣象を賞す。極進ハ昔時の
傑足下々今日の勇奇多々其
市川の藝術鳴呼はぐもま。獨
こころを鑲と鼓ハ儂子浪華は
客巧くむつとく。曰。汝出る儂の
東都自慢を上る。我問と何々。
當世流行するも何ハ何く我答

曰。其一二と擧るるハ三件繫親
和染。元日茶とび色大名縞短脇
差。長羽織因杵地藏之富の札棠立
坡者。手打河偏画艸帝西落本蚕
紐笛吹按戸女医者。土や面る一と
豆藏の如く。亦向今浪華不狂歌
專行る。東都を誰くぞ答曰

四方赤良朱樂管江。か衣橋洲平
原屋東作。もとよみと細智重の内子
其外可あてかたへかへ。お訓諭
解庵獨庵木犀庵獅子眠を始と。
是まよ云もおたささぞ。画44帛の
作者はいく年。喜三三春町芝金交
此三子と上手と寸。上福理のふ力

ろろろ。鬼外先生没して後。紀の
上太郎。兵治萬象貫四揚黛魁
眼と笑と。お初言、次助重助
專助馬雲。河竹金井を休かぬ。
云おろり。るる浮世画ハ花籃春章
清長湖龍お磨向とありやいふ。
有とく料理家をハテ食類

とらおゆえつ紙。標三沖屋大紋
屋。葛西太郎。大黒屋。浮瀬枕流
山藤庵。樂庵。百川。四季庵。四季
おろくお献立。善お。美お
をり。客日。を。つ。ま。と。打。て。曰。
恐ろ。あ。ま。を。東都の盛。あ。ま。
他邦の及ぶ所。非。長袖。能。着。

又。錢能。南の大都。浪華の扇と
あ。あ。ん。と。虫のよ。たの。甚。ま
か。願。を。先生。後。青。樓の
曲。と。辯。ト。余。故郷。帰。を
早く。童。四。僕。傳。再。東都。小
来。扇屋。乃。天井。を見。ざる。如
一。助。と。き。んと。混。空。の。求。應。ト。

烟草四五ぬくと食つて。又味噌と
喫つて曰。其積礫而不窺玉淵
者未知驪龍之所蟠也。お糸一水
道の流を食ども俗中と云ふ
いまだ通のつるともゆと云
す。余長命ろろろ一一世の形勢
を見ろろ。母の胎内残出る乳

汁を食ひ。おろ城根とあり
ろろ。鳥飼が羊羹を甘じ。旦
暮ろ會残魚を食いて他
止時よく。下稚が天願を木魚
を撃つ小等。乳母が結立乃
髪をむる。おろ声四遊を驚
一。蹴躡騰ろ埃す。糸代大

おはゆい。番太郎一丁雅と走
し。お長杵ぬらぎ。一。と。鉦の
天神と。嵐の。婿入の。牝双帝と
を取来。坊様。獻す。二品と
投出。是。で。を。あ。み。と。吹。々
こと。己。前。と。培。す。伴。頭。が。口。小。言
紛。々。と。して。自身。と。人。形。一。へ

至。す。角。力。取。の。木。偶。を。買。ふ
帰。来。つ。ま。ま。坊。様。小。説。す。漸
寛。尔。と。一。多。床。の。間。へ。か。さ。さ。ま。
長。杵。を。相。手。と。し。と。喜。氣。満
面。と。な。ぶ。父。母。あ。ま。を。見。て。能
を。流。し。戲。場。事。の。ま。や。ら。あ。る
代。裏。店。の。噂。と。傳。ふ。巻。言。る。よ

と小栗殿の馬仕如く。父母是
に乘下り。そのとをばし
駿刺とゆるす。草薄刀ハ
の間と塞ぎ。画草帛長持
餘る長松買とけ。錢と掠
る。飴棒とちり。大轉連
糖の下早く至る。湯俵

鼻唄。梅广々大をけ。ちりハ
手。下。此。伊之助。か。め。せ。坊。様。の
御氣。入。り。入。り。傍。輩。を。火。茶。を
寸。髪。置。袴。着。の。御。祝。儀。大。丸
越。後。屋。と。来。り。錦。繡。を。南。に。
定。紋。を。俗。な。ま。と。一。を。篆。字。ハ
壽。乃。文。字。を。縫。せ。當。日。明。神。

諧い多い密い之い往い来い乃い評い判いといる
俾い之い味い曾いをい上いといるいとい火い乃い見い
櫓いよりい高いくい乳い母いがい鼻い天い狗い乃い
倍い寸いハい歳い乃い頃い義い之い流いのい華い道い
をい字いバいせい四い書い乃い素い讀いもい寸いまい
がい歌い小い唐い詩い選いとい太い平い乃い坊い
様いのい幼い号いハい西い風い乃い吹い散いトい輕い

薄い子い来い乃い客い且い那いとい稱い寸い發いハい
頭い上い之い曲い一い羽い織い乃い地いをい拂いワいスい
長いくい自い讚い一い乃い曰い匪い直い也い人い乘い
心い塞い淵いとい野い暮いをい見いるいとい上い
野い乃い下い谷いをい見いるいがい如い一い茶い乃い
千い家いをいまい乃い俳い諧いをい和い泉い街い乃い
志い乃い韻い一い集い乃い甘い乃い

勢た。崩しく形容を正し深淵と
 出るとさん橋と多水バ。娼婦漸
 送ッ。吉さん此間への一介ハ
 一々言を對無情あるふと
 淡々。早あるふ深川乃
 遊び。檜木葺臺と踏ずんバ
 迷み汚彌と魚をす。叢明

一々。一日知己相伴。青樓
 至る中之街。一。沽妓酒と
 嚙。一。洒落。一。救刺客と
 具々相集。徒ハ。蘭爾東洲
 五調嘉隆。目吉藤兵衛等。喧ハ
 百とあ。一。大声笑話。一。盛
 めり。茲小於。一。魂。一。め。宿

替寸。寡終おろつる娼家やうかに至いたり。六幼むつ
穴あなたる老乱らうらん婢めかけ始はじまる雛婦ひなめかけ琴こと
を彈ひ弦しんを鳴なりて鐘かね中ちゆう塵埃じんあいを
拂はらい。およしあんし馬鹿ばかしりの
廓くわく言げんハ十寸じゅうすん見みグ曲まが声こゑと争あい高たか
樓ろう銀燭ぎんじやく乃の光ひかりを白しろ盆ぼん乃のおとく
並なら立たつる臺たい乃のもよひ上かみ座ざより

島しま何なにるうと疑うたがひ。食く類るいを標ひら三さん
舛ひら屋やが風流ふうりゆうを志こころし。酒さけハ清きよ繁はん
乃の下流かくりゆうを汲ひむ。鑿たく手て多おほく鑿たく
五ご樓ろうを多おほくさす。向むか僕べ多おほく雛婦ひなめかけの
探たん索さく哉や戒かいむ。閨きん中ちゆう綾羅りやうら乃の三さんツ
ぬもん。金きん糸いとハ雪ゆき舟ふね探たん幽ゆうと雲くも
上かみあり。客きやく不ふ使し者しや亦またく傾かた城じやう々々

鄙俗ひんぞくはく。濱衛先生の筆意を
學まなび。唐机たうきと和漢の書を飾かざる
王章わうしやう怯おそくしん温わんくく和わくくととししる
諸しよるる伴頭ばんとう雛妓ひなぎ小任せうにん寸調度用
物ものの價あひと志しるる。孔方こうはうは枚量まいりやうも
志しるる。是こゝと性しやう悪あくの奥様おくさま小
たたととふふととししめめてて知る深川の夷狄

あること。或ある人の異見いけんと曰いふ。
傾城かやうじやうと誠まことある。鶏卵たいまにの方ほうある
ある。若わ此こゝ両品りやうひんのの晦日みそひの魁かゝと
月つき々々出ると。あま俗徒ぞくとの談だんととししる。
いまど娼婦しやうふと真まことある。け證しやうと見
ざる故ゆゑあり。古語こご曰いふ。臨困りんこん而を羨せん魚ぎよ
不知しらず退ひき而を結むす細こさたの真偽まゐを論ろん

ぞんよりり。己が傾城をたはむすは
おあきと慙ぢ。又謂傾城
誠が何れを運乃おと。俳諧小
いへる。どく。伴頭を顧は傾城
疎く。傾城親かんとすはバ
家おさま。是は是なること
か。あ。非也。非とす。非を

あ。傾城乃誠心を見はあり。
商人の金を出し。物を買ふも
錢の儲を土はあり。其もま。は
ふ。是。一。あり。何ん
鉦者。と。識。金。は。あり。は。の
最上。青。ろう。の。た。の。智。者。と。あり
愚。者。と。あり。通。と。あり。野。暮。と。

あゝも何^{なん}も正^{ただ}ふ金^{かね}乃^{すなは}ち少^{せう}くも
益^{えき}翼^{よく}而^{して}能^よ飛^ば益^{えき}足^{あし}而^{して}行^ゆヤツサ
コラサの二百^{にひゃく}サ。猪^ぶ牙^がハ船^{せん}州^{しゅう}の^のま^まふ
ま^まり付^けせぬ来^きるす^すりも^もは^はる山^{さん}ま^まり
ぬ^ぬく金^{かね}く。名^な廣^{ひろ}ふ。會^{かい}。力^{ちから}勻^{ひら}乃^{すなは}ち席^{せき}
河^か内^{ない}屋^やが高^{たか}ろ^ろうか^かみ^みく^くあ^あり^り
お羽^は織^{おり}と見^みる^るハ戴^{たい}る山^{さん}子^こを^をん

あゝと欲^{かく}一^{いつ}お^おま^まを^をる^ると見^みる^る雲^{うん}
こ^この^のけ^けこ^こく^くく^くま^まの^の棧^{せき}敷^{しき}影^{かげ}又^{また}世^よ
乃^{すなは}ち^ちけ^けい^いと^とは^はや^やと^と雲^{うん}と^とや^やと^と暗^く雲^{うん}小^{せう}
驕^{けう}と^と而^{して}乃^{すなは}ち^ちら^ら小^{せう}身^み上^{じやう}散^{さん}く^く廣^{ひろ}く^くも^も
ある。忠^{ちゆう}臣^{しん}ハ退^{たい}き^き在^{わい}臣^{しん}ハ^はま^まく^く息^{いき}子^こ
田^{でん}舎^{しゃ}と^と熱^{ねつ}一^{いつ}。地^ち面^{めん}ハ^は野^や暮^ぼと^と被^ひ人^{じん}令^{れい}
各^{かく}响^{きやう}中^{ちゆう}甚^{しん}高^{かう}く^くべ^べん^んと^と蘇^そ秦^{しん}張^{ちやう}義^ぎ

伐欺^{たぎ}也。杵^{きね}之^の周^{しゅう}公^{こう}呂望^{りやうぼう}之^の越^こ。善^{ぜん}
之^の邪^{よこしま}正^{ただ}暗^{あん}明^{めい}之^の白^{しろ}乃^{すなは}理^り之^の由^{よし}之^の
知^し之^の也^{なり}。行^い之^の文^{ぶん}盲^{もう}乃^{すなは}人^{ひと}之^の
も非^ひ也^{なり}。武^ぶ士^し化^け之^の宗^{しゅう}匠^{じやう}之^の也^{なり}。
高^{たか}人^{ひと}へん^んト^ト之^の居^い候^{こう}とある。千^ち柳^{りゅう}が
前^{まへ}之^の曰^{いは}掛^か人^{ひと}むろ^ろト^トといふをり
たまはれと。相^あ之^のはり是^{こゝ}憎^{にく}信^{しん}口

おいまど止^とざる^る故^{ゆゑ}あり。先^ま人^{ひと}馬^ば
鹿^か百^{ひゃく}韻^{いん}を^を作^{つく}す尻^{しり}を^を寸^{すん}ほめ。近^{ちか}ハ
宝^{たから}井^い大^{だい}通^{つう}山^{さん}入^{いり}を^をと^と品^{しん}川^{せん}を^をま^まく
ち^ちる^る等^{らう}と^と系^{けい}領^{りやう}乃^{すなは}遠^{とほ}者^{もの}より起^{おこ}る。
奠^{けん}街^{がい}之^の邪^{よこしま}老^{らう}没^{ぼつ}ト^ト之^の助^{すけ}六^{ろく}乃^{すなは}初^{はつ}日^{にち}寂^{じやく}
ト^ト。大^{だい}山^{さん}代^{だい}叅^{さい}乃^{すなは}咄^{はな}も^も子^こか^か守^し。功^{こう}成^{せい}
各^{おの}遂^{すい}之^の身^み退^{たい}之^の輩^{はい}。狗^{いぬ}犯^ひ之^の油^{あぶら}の

香と忘れ。清次が本田もひと
昔の噂とある。惜哉東都各物の
衰とある。半太夫がくおある
野呂間再創る。土佐外記の二流を
知る人希あり。願を夷秋乃曲と
避辛一口も東都節の雅言口
まある極一と寒夜と大肌と脱

三件お手帳とちち巻とてい
が世話と焼栗の杜撰は呵を
遊栗追栗のいん誤白云爾

尋常軌本紀跋

孟晋須しんすよのふの華人しんじんの詞ことばなり

曰い居まハの氣き瓜か梅ばい春はる魚うまハの情じやう依い

寫しやう才さいハの凡ぼん大だい作さくハの天下てんかニ

三さんツつ西せい京きやうハの堂どう塔たつ伽が藍らんハの

ハ

浪なみ火か也なり交かう易い運うん遭そう何なに智ち惠ゑ

とと膽たん氣きハの金きん也なり東とう都ととと陳ちん

也なり何なに國こくハの乃なりんん也なり吾わ友ゆう

島しま田でん金きん若じやく子し具ぐ江かう都との

中ちゆう央おうハの乃なりんん也なり生せいハの

おへ性根の七歩成進め後へ
 野狐の七歩成退死。難陀が口
 くり西落成吐跋陀が口よま
 自慢成吐武藏野の系成腹
 富士が山と準少くもり。

聰明獻智いよの承知生れ身
 る智恵の甲折。常頭未結り
 育られ其丈三万二千丈成
 の老翁千三万と云せ。放屁儒
 有誤くも。まあも長カぬ智

惠の海^つ硯^{すま}は^り散^ちま^りば^ら一^つ勺^{しやう}と^りなり。
 毫^すは^ら摺^すれ^ば一^つ卓^{たか}と^りなり。免^ま成^{じやう}
 角^{かく}介^けり^て霸^はか^らい^て争^あは^りて^は争^あは^りる^人。
 有^あ難^{がた}と^り争^あは^りて^は争^あは^りる^人と^り鶴^{つる}飲^の
 の玉^{たま}川^{がわ}鮎^{あひ}水^{すい}道^{だう}の^の水^{すい}の^のそ^れだ^ん

たれこ

と^り争^あは^りて^は争^あは^りる^人と^り鶴^{つる}飲^の

と^り争^あは^りて^は争^あは^りる^人と^り鶴^{つる}飲^の

天明^{ていめい}之^の炭^{すす}并^な上^{じやう}歳^{さい}春^{しゆん}め^めの^の母^ぼ

く^くめ^めの^の日^ひ



白跋

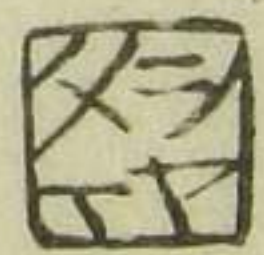
瀧盆ハ茅小集一ノ際富ハ七市リ
憲一ハ往昔老夫山ハ紫野
川ハ洗濯するの所代リて天
棒上へそり多る此定規リ何
貧者ハ時塩のそんまど貴一
ハ鋪のこぞは奇なりとヤ
條

の米ハ追れて腹中ハ
の美酒ハ今ハ
堂たの
古語ハ
山ハ紫野
たハ
ハ

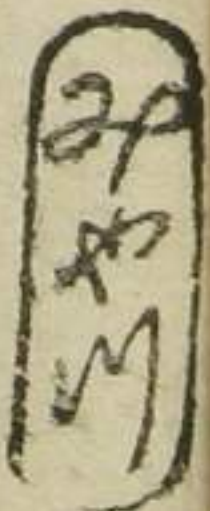
志のり

三所 甲辰 案本 考考

島田金谷 述



廿六



5449

